

普及に移す技術 (第99号)

令和6年8月

宮城 県
農業・園芸総合研究所
古川 農業試験場
畜産試験場

本資料の取り扱いについて

本資料は、試験研究機関において令和5年度中に得られた成果について、令和6年8月に発行しております。農薬の登録状況等は常に最新の情報を確認されるようお願いいたします。

文献等への引用・転載等を行う場合には、必ず事前に宮城県農業・園芸総合研究所に連絡し、引用元を明記してください。

連絡先：宮城県農業・園芸総合研究所 企画調整部

電話：022-383-8118 E-mail:marc-kk@pref.miyagi.lg.jp

目次

◆ 普及技術

〔畑・特用作物〕

- 1 トリフルラリン乳剤の大豆播種前全面土壌混和による帰化アサガオ類の初期防除効果の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

〔野菜〕

- 2 極大果イチゴ新品種「みやぎ i 3 号」・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 3 イチゴの培地加温に利用可能な木質バイオマスボイラー・・・・・・・・・・10
- 4 イチゴ種子繁殖型品種のセル苗本圃直接定植技術・・・・・・・・・・15
- 5 宮城型養液栽培を活用したナスのつる下し栽培法・・・・・・・・・・20
- 6 キャベツ「初恋」の9月上旬定植秋冬どり栽培・・・・・・・・・・23

〔花き〕

- 7 花径 10cm 以下の小輪ヒマワリ栽培技術（第 2 報）・・・・・・・・・・26
- 8 無加温栽培が可能な花材切り花ハボタンの定植適期・・・・・・・・・・30
- 9 夏秋ギクのセルトレイ育苗期における定植前摘心・・・・・・・・・・33

〔経営〕

- 10 水田を活用した露地園芸品目導入の手引き（第 4 版）・・・・・・・・・・36

〔家畜〕

- 11 新しい基幹種雄牛「絵里波」・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
- 12 新しい基幹種雄牛「勝茂桜」・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

〔農業土木〕

- 13 もみ殻疎水材の充填の目安・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

◆ 参考資料

〔水稲〕

- 1 除草剤の体系処理を中心とした雑草イネの防除・・・・・・・・・・49
- 2 水稲品種「金のいぶき」の栽培法（追補）・・・・・・・・・・53
- 3 令和 5 年産米の品質低下要因の特徴・・・・・・・・・・55
- 4 令和 5 年産水稲種子の発芽の特徴・・・・・・・・・・58
- 5 グレーンドリル鎮圧方式水稲乾田直播栽培における「ササニシキ」の収量構成要素の目安・・・・・・・・・・60
- 6 水稲乾田直播栽培の早春播種技術・・・・・・・・・・64

〔畑・特用作物〕

- 7 ドローン空撮による大豆品種「ミヤギシロメ」の主茎長の推定・・・・・・・・・・67

〔野菜〕

- 8 「にこにこベリー」果梗折れ軽減資材の効果・・・・・・・・・・70
- 9 イチゴにおける葉面積の非破壊推定法・・・・・・・・・・73
- 10 極早生品種を用いたエダマメの二期作を可能とする播種日・・・・・・・・・・76
- 11 ちぢみホウレンソウ栽培における播種適期の目安・・・・・・・・・・79

〔果樹〕

- 12 有望なブドウ赤色系品種の果実特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・84

13	リンゴ黄色系品種を用いたジョイントV字樹形の早期多収性	87
14	モモ晩生品種「玉うさぎ」の果実特性	90
	〔花き〕	
15	赤色LEDランプを用いた露地電照栽培に適する夏秋ギク品種	92
	〔土壌肥料〕	
16	令和5年産「ひとめぼれ」における基部未熟粒の多発要因	95
17	有機質資材の全窒素に基づく畑地での簡易窒素肥効判断指標	99
	〔病害虫〕	
18	クモヘリカメムシの分布域の拡大と防除対策（追補）	102
19	ダイズサヤタマバエによる被害リスクと防除対策	104
20	ダイズ紫斑病のQoI剤に対する薬剤感受性低下	108
21	根こぶ病抵抗性キャベツ品種「BCR 龍月」	110
22	宮城県におけるナシ黒星病の秋季防除の目安	112
23	野菜類灰色かび病菌の6種薬剤感受性	114
24	オオムギを間作利用する場合の効果的なオオムギ播種時期	116
25	パプリカ施設における天敵を利用したアザミウマ類防除	118
26	カーネーション生産施設における天敵と気門封鎖剤を利用したハダニ類防除体系	120
27	赤色ネットの展張と化学農薬の散布による花き類生産施設における アザミウマ類の密度抑制	126
28	光反射資材の敷設による花き類生産施設におけるアザミウマ類の 侵入抑制効果（追補）	129
29	施設内へのコナジラミ類の侵入を抑制するための防虫ネットの目合い	132
	〔作業技術〕	
30	換気時に効果が期待できるダクトによるCO ₂ 施用法	134

○普及に移す技術

I 普及技術：試験研究機関において得られた成果で推奨しようとする新しい技術及び品種・種畜

II 参考資料：試験研究機関において得られた成果で参考となる事項

普及技術

參考資料